

経済指標レポート 第207号

(社) 関西経済連合会 経済グループ (担当: 高島)

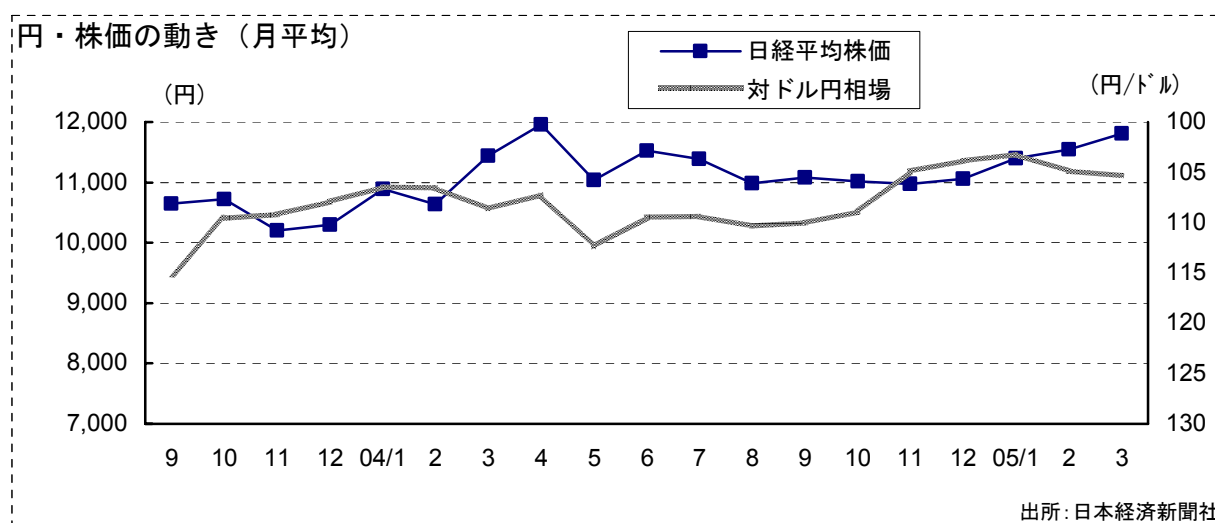
Tel : 06-6441-0102 Fax : 06-6443-5347

3月の日銀短観によると、大企業製造業のD Iは前回の12月調査に比べて8ポイント悪化のプラス14となり、2・四半期連続で悪化した。市場では、IT関連産業などの生産調整が続いていることに加え、原油や素材価格の高止まりが素材および加工産業をともに圧迫し、企業のマインドを慎重にさせているとの見方もある。4月の月例経済報告においても、4カ月連続で基調判断が据え置かれ、景気のけん引役である企業部門の業況判断が「慎重さがみられる」と4カ月ぶりに下方修正された。

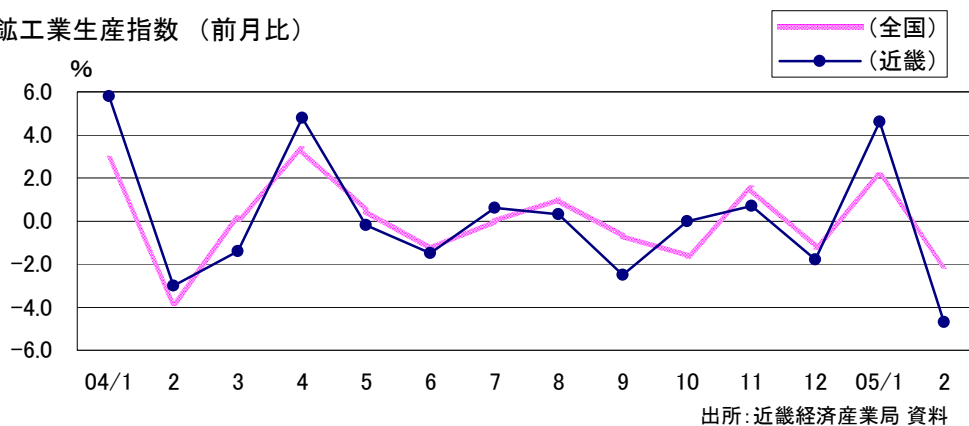
それでも先行きについては、底堅い見方が続いている。関経連・大商が共同で実施している「経営・経済動向調査」でも、3か月先、6か月先については国内景気および自社業況ともに好転する見方が多くなっている。民間シンクタンクでも、①電子部品・デバイス分野での在庫調整が一段落し、鉦工業生産が増加に転じること、②欧米景気の堅調、アジア諸国の成長持続により輸出が持ち直すことから、本年後半頃から企業部門にけん引されるかたちで景気回復傾向が出てくるとの展望が示されている。

したがって、わが国経済が踊り場を抜け出し、再起していくためには、企業部門とともに今後は個人部門に十分な配慮が必要である。個人消費に関連する当面の雇用・所得環境、消費マインドなどに留意するとともに、社会保障制度の改革など、一人ひとりの先行き不安を払拭する取り組みも不可欠である。とりわけ、与野党による両院合同会議で議論が始まった年金制度改革については、国民の年金不信を解消し、わかりやすい制度構築にむけた努力が求められる。

<各指標の動き>

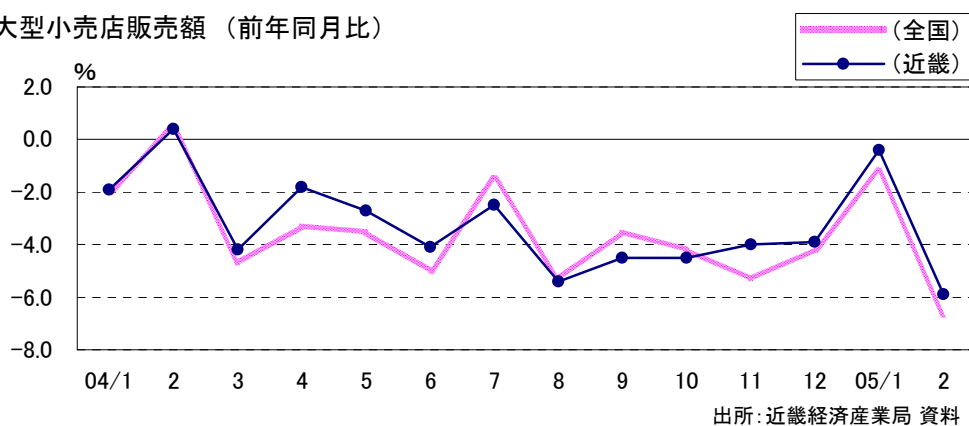


鉱工業生産指数（前月比）



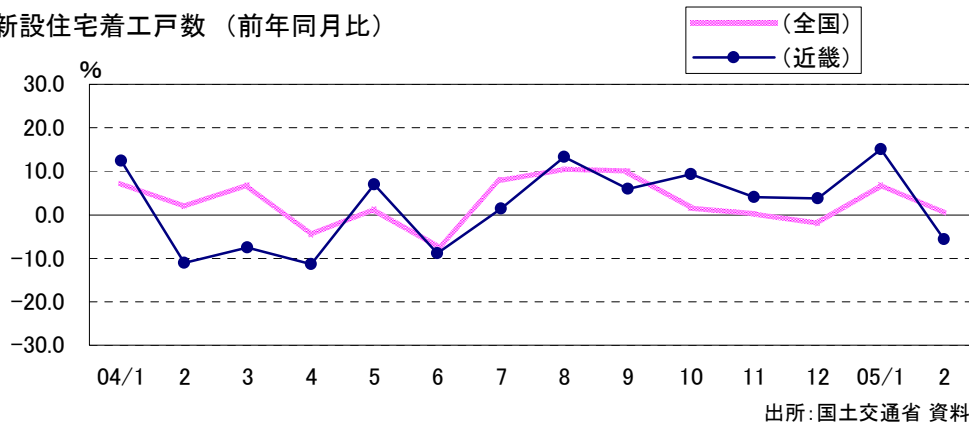
◇近畿は前月比 4.7%減、2か月ぶりの低下。業種別で見ると一般機械工業、金属製品工業、精密機械工業などが低下に寄与し、在庫調整の動きがみられる。

大型小売店販売額（前年同月比）



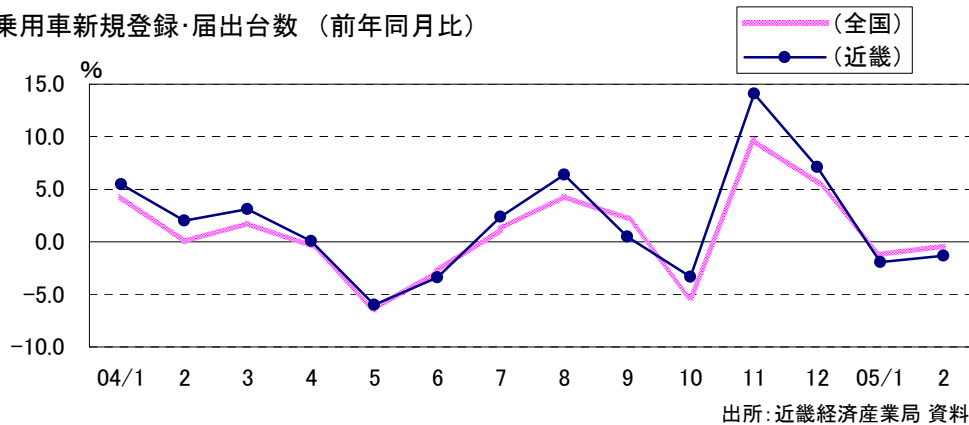
◇近畿は前年比 5.9%減、12か月連続のマイナス。百貨店は気温が低めに推移したため春物商品に動きがみられずマイナス、スーパーは飲食料品をはじめほとんどの商品が不調でマイナスとなった。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



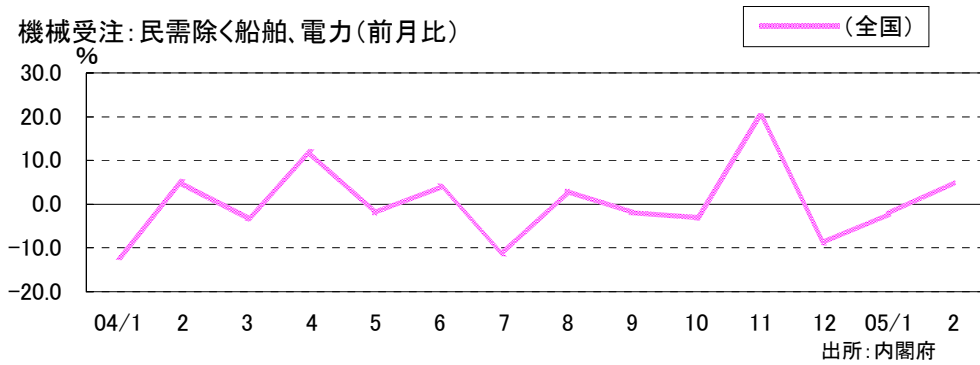
◇近畿は前年比 5.6%減。貸家は14.8%増と堅調であったが、持家（同7.4%減）、分譲住宅（同19.7%減）は減少した。分譲マンションも慎重な動き（同34.1%減）をみせた。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



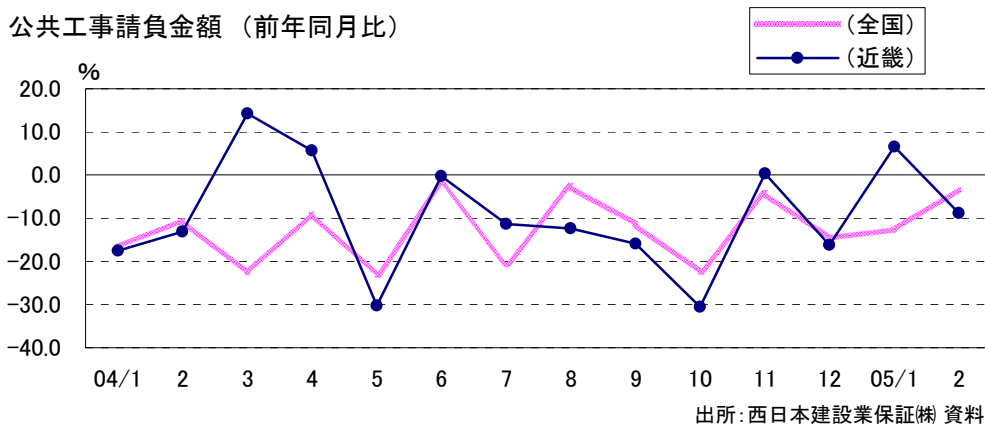
◇近畿は前年比 1.3%減。新車の投入があった小型車（同3.6%増）は増加したが、普通車（同5.9%減）や軽四車（同3.9%減）などそれ以外の車種は減少した。

機械受注：民需除く船舶、電力（前月比）



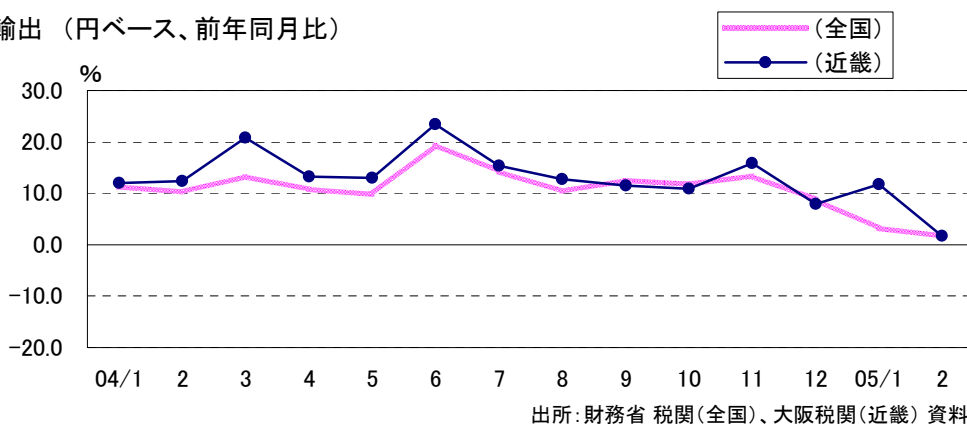
◇機械受注は前月比4.9%増、3 か月ぶりのプラス。業種別の受注は、製造業が前月比10.9%増、非製造業が1.4%増となった。

公共工事請負金額（前年同月比）



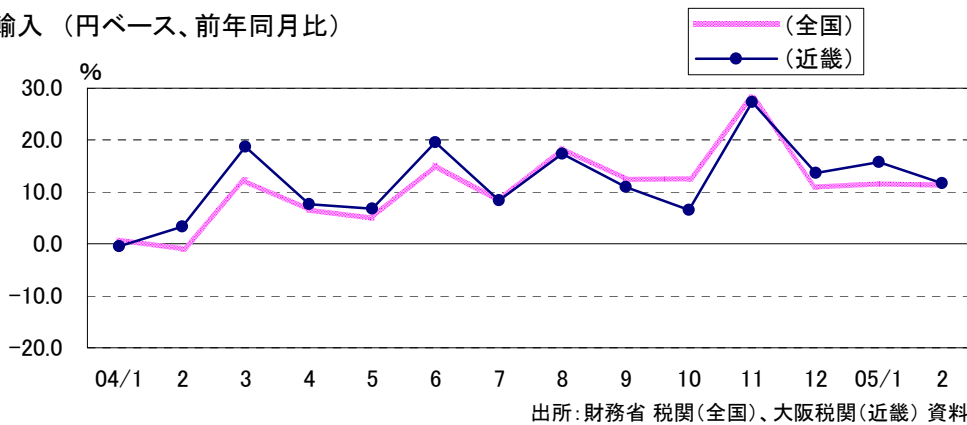
◇近畿は前年比8.8%減。大型工事が寄与し「その他の公共的団体」で3倍増となり、市町村・公団事業団等で微増となったが、国で半減、府県で大幅減となったことによる。

輸出（円ベース、前年同月比）



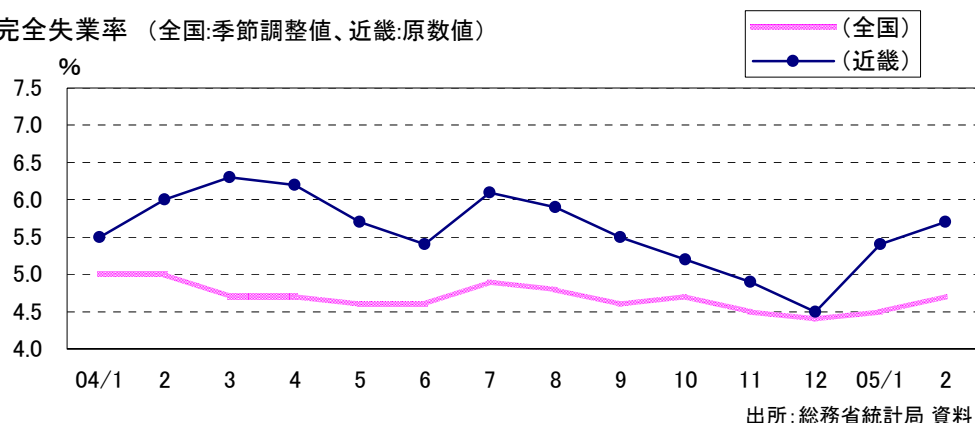
◇近畿は前年比1.7%増。35 か月連続のプラスとなったが半導体などの減少が影響し伸び率は前月（11.7%）よりも縮小した。また中国への輸出は36 か月ぶりにマイナスとなった。

輸入（円ベース、前年同月比）



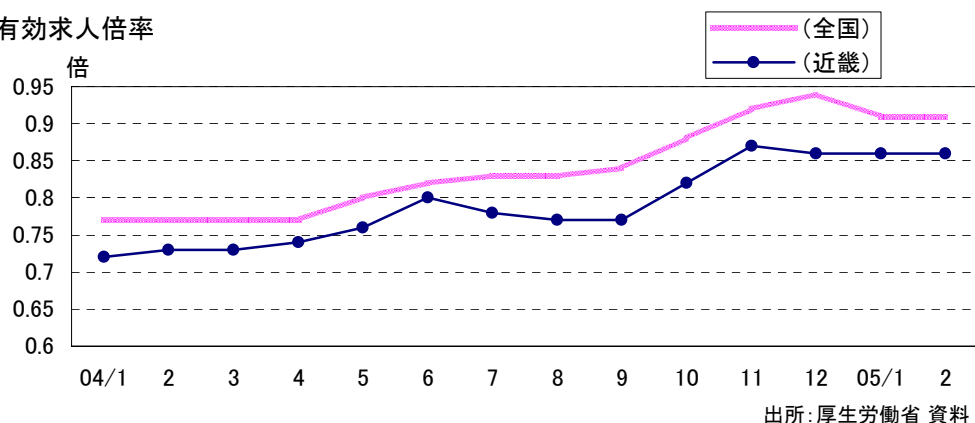
◇近畿は前年比11.7%増、13 か月連続のプラス。アジアからの音響・映像機器、衣類・同付属品などが好調。また原油なども世界的な素材価格の高騰により輸入額が増加している。

完全失業率（全国:季節調整値、近畿:原数値）



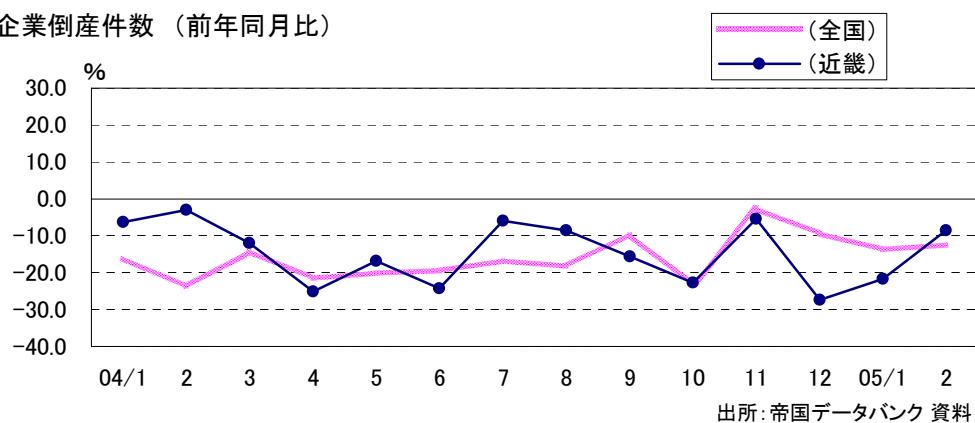
◇近畿は 5.7%、2 か月連続の 5%台となった。今年にはいつてから前年と比較した改善幅が1月は0.1ポイント、2月は0.3ポイントと小幅になっている。

有効求人倍率



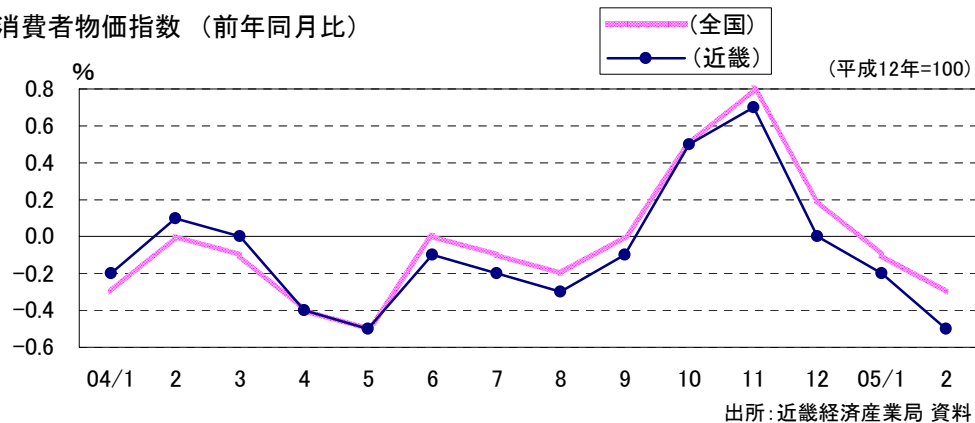
◇近畿は前月比横ばいの 0.86 倍。大阪府は前月比 0.01 ポイント低下の 0.94 倍となった。新規求人倍率 (1.54 倍) も前月より 0.02 ポイント低下した。

企業倒産件数（前年同月比）



◇近畿は 243 件 22 ヶ月連続の減少となった。大型倒産としては、ゴルフ場関連が目立った。主要業種別では、最も構成比の高い建設をはじめ建設、鉄鋼・金属、食品なども大幅に減少している。

消費者物価指数（前年同月比）



◇近畿は 96.7。依然デフレ圧力が根強い。品目別でみると「家具・家事用品」、「被服及び履物」の下落が目立つ。